

HopStepJump

<http://toyono-jinjikyō.com/>

5

児童生徒理解を深めるために①

第4回のテーマは児童生徒理解です。豊中市立螢池小学校の矢木克典校長先生に来ていただきました。矢木校長は豊中市の中学校教諭をされた後、大阪府教育委員会で長年支援教育に携わり、豊中市教育委員会では教育推進室長を務められた、支援教育のエキスパートです。携わってこられた具体的なお話を聴くことができたため、日々悩んでいた先生方も明日から使ってみよう！という意欲あふれる表情が多くありました。

☆ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり☆

私の学級には取り組みに参加できない子、ノートをかけない子が数名います。『どうしてできないのか』ずっと悩んでいます。ABC行動分析と実際に自分の覚え方のスタイルを体験して『どうして』ではなく『どうすれば』を考えることがより重要であると勉強になりました。子どもたちが取り組めるような工夫を考えていきたいと思えます。

アメと無視、行動のほめ方など具体的な方法を聞けてすごく参考になった。自分が『これくらいはできて当然』と思い込んでいて、今まで児童に辛い思いをさせてしまったのではないかな。と反省した。

今日の講義を聞いて私自身配慮が足りていないことが多々あることを痛感しました。指示を具体的に、一人ひとりが見通しを持って授業に臨めるように授業づくりを一から見直したいと思えます。

明日からやってみようと思うことがたくさんありました。やる気が出てきました。子どもそれぞれに認知の仕方が違うため、様々な方法で授業を展開していかないとはいけません。



子ども理解のためには、『困った子ども』ではなく『困っている子ども』『気になる子ども』『気にしてほしい子ども』『できない子ども』は『できない状況に置かれている子ども』という視点が大切だということを学びました。

私のクラスには生まれつき障がいがある子がいます。初めはとても戸惑いました。ですが、私よりも周りの子の方がその子のことを理解し、助けてくれる姿を見たとき、もっとその子を中心とした学級づくりができないかなと思えるようになりました。その子のおかげで助け合えるクラスになったと胸をはって言えるよう頑張りたいと思えます。

時には生徒に嫌がられてでもしんどい作業をさせることは必要なのではないかなと思う。経験の積み重ねによって身につく力は必ずある。『配慮』が『あまやかし』になるのはよくないように思う。

担任として毎日子どもたちと顔を合わせていても、知らないことや理解できていないことがまだまだあるということを知りました。その上で、子どもたちの家庭や地域での様子にも思いを馳せながら、少しずつ情報を集めるようにしてみましょう。プラスの情報を得ることは、子どもたちとの距離を一気に近づけます。

☆今日からできる学級経営 10 のS☆

机間巡視の際にノートに付箋を貼ってヒントを与えるのがよいと思えます。

子どもに挙手させる際は、順に挙手させるのではなく、一斉に挙手させることで誰があげていないかが一目でわかる工夫は初めて知りました。是非授業に取り入れていきたいと思えます。

2年生までは聴覚優位というお話は初めて聞きました。1年生を担当しているので、もっと発言する機会、歌う機会を増やして、リズムで覚える工夫を増やそうと思えます。

認知には特性があるので書く、聞く、身体を動かすなどの要素を織り交ぜながら授業を展開していくことも大切。立ち歩く生徒は何らかの理由があり、行動によって先生や友達の気を引きたいと考える。教師はぶれない対応と関わりすぎないことに気を付ける。授業の流れ『はじまり』『中』『おわり』がはっきりとするように書くことで授業の進行状況がわかる。えんぴつの持ち方で姿勢が変わる。

教え合う、伝え合う活動を通してエピソード記憶に変えていくと記憶に残る。

『三種類の行動に対する対応』は中学校で生徒指導をする際に参考になりました。感情的になることはよくないですが、自分のなかで善悪の線引きができていませんでした。今回のテーマは明日から使いたいです。

最近叱ることが増えてきました。良いことをした瞬間を見計らって褒める、を心がけます！

支援教育は決して特別なものではありません。まず、一人ひとりの子どもたちに寄り添うということがあって、その次に特別支援に関する知識が必要な子どもたちがいるという風に捉えて欲しいです。小学校学習指導要領解説総則編には、「障害のある児童の指導に当たっては特に教職員の理解の在り方や指導の姿勢が、児童に大きく影響することに十分留意し、学校や学級内における温かい人間関係づくりに努めることが大切である」・・・とあります。支援の必要な子どもたちの活動、指導の計画に関しては学年の先生や支援担の先生と十分に相談しながら多角的に考えるようにしましょう。保護者の方々も、複数の教職員が子どもの育ちに丁寧に関わってくれていると感じられるだけで、ずいぶん安心されるものです。

ユニバーサルデザインの授業づくりは今後とても大切だと思うので回数を増やしてほしいです。

自分と同じ悩みを持った方とアドバイスし合えることができてよかった。

学年が同じグループだったので話し合いもスムーズにいました。ですので次の研修の時も同じ学年、グループがいいと思います。良い情報交換の場所にもなりました。

夏休みの研修では、受講者同士の交流が主流の研修もありますので楽しみにしててください。

矢木校長先生にお話しいただいた内容は「大阪の授業STANDARD」にもある項目です。

大阪府教育センター「大阪の授業STANDARD」より抜粋

授業のユニバーサルデザインをめざして

原則1 公平な使用への配慮

原則5 事故の防止と誤作動への受容

原則2 使用における柔軟性の確保

原則6 身体的負担の軽減

原則3 簡単で明確な使用度の追求

原則7 使いやすい大きさ・広さと条件の確保

原則4 あらゆる知覚による情報への配慮

上記のことから具体的に考えられることが例にあげられています。授業の参考にしてみてください。

★ 授業構成の工夫: 1時間の流れを予告し、見通しが持ちやすい導入を行う

→『何を』『どんな順番で』『どう取り組んで行くのか』

★ 指示・説明の工夫: 廊下はあるきましょう → 否定ではなく肯定的な呼びかけ

★ 認め合う学習集団づくり: できたことをタイムリーかつ適切に評価する → 『○○ができて、すごいね』

★ 教室環境の整備: 「誰が」「何を」 → 当番表を一覧にする

